

+

河野 哲也
日本学術会議第一部特任連携会員
立教大学・文学部教育学科・教授

公開シンポジウム
日本学術会議哲学委員会主催
哲学系諸学会連合・日本宗教研究諸学会連合共済

**哲学と人文社会学の明るい未来：
これは皮肉ではない**

+ 結論

- (私は) 世間という大きな書物のなかに発見されるかもしれない学問以外はもはや求めない決心をして、青春の残りを、旅行し、ほうぼうの宮廷や軍隊を見、各種の性格と身分の人たちと交わり、いろいろの経験を積み、運命が自分に与える機会をとらえて自分を試練し、至る所で自分の前に現れてくるさまざまな事柄について反省を加えて、そこから何らかの利益をひきだすことにもちいたのであった。

■ デカルト『方法序説』

+ アウトライン

- 知は何のためにあるか
- 専門知の問題と哲学系諸学
- 公共性の徹底化としての人間
- 現代哲学の問題
- 現代哲学の知としてのあるべき姿：学問内での位置付け
- さらに大きな人類への使命
- 現在の研究と実践の紹介

+ 知とは何のためにあるか

- 人類（及び地球）の福利のために
- 何が人類の福利となるか
- 人間性の発展と良き社会の構築：双方は相互作用的關係
- 人間性の発展：質の高い生活を追求できる潜在能力の開発
- 良き社会：メンバーの潜在能力の開発を妨害せず（自由）、公平に支援する社会（平等）
- 知的探求と教育は、この福利の一部をなす

+ 専門知の問題と哲学諸分野

- 「科」学の問題：知＝社会の分断、専門家の主導と市民の従属
- 科学の理想的あり方：普遍主義、公正無私性、組織的懐疑主義（非-権威主義）、共有主義
- 現代の科学研究の問題（Ziman）：所有的、局所的、権威主義、請負的、専門主義的
- 公共性の喪失：哲学系諸学の専門化の問題
- 公共的知として教養：市民の自立性の獲得（当事者性）、知の民主化、人間交流の洗練、市民と専門家の価値のすり合わせ

+ 公共性の徹底化としての人間


- 「人間」の概念：市民から人間へ、国民から人類へ

+ 現代哲学の問題

- 現代哲学の問題：20世紀哲学における専門性の追求（分析哲学、現象学）
- 分断による必然的衰退：分野内での分断、諸科学との乖離、市民性からの分断

+ 現代哲学の知としてのあるべき姿：学問の中での位置づけ

- 当事者（ないし市民）のニーズを要として諸学を連携させる
- 基本問題への回帰
- 問題発掘力と結節力としての哲学系諸学：リーダーではなくファンリテイター
- 専門知の到達点としての教養：教養の中心をなす哲学系諸学



+ さらに大きな使命としての社会の再構築

	統合原理	組織の時間性	メンバーの役割
ゲマインシャフト	権威と慣習	過去の同一性	不変の地位
ゲゼルシャフト	共通利益	未来の共通性	可変的機能
民主主義社会	真理	現在の包括	参加と自己表現

+ 哲学系諸学の人類への使命

- 「人間」という視点に立った社会の再構築
- コスモポリタンな社会の構築
- 当事者性の支援：自己表現と参加、インクルージョン
- 民主化の推進：ディープ・デモクラシー
- 人間交流の洗練のためのコミュニケーション：対話と思考
- 人種、性別、国家、民族、文化、言語を超えた社会形成：探求の共同体

+ 現在の研究と実践の紹介：

+ (1) 知のエコロジカルターン

- 趣旨：現象学と生態心理学の融合により、メゾ・スコピックな環境のデザインのための理論と方法論の構築する。
- 法・政治（マクロ）と個人（ミクロ）の発展を可能にするメゾ人間環境のよきデザイン
- 研究主体・資金：科研費、学内競争的資金
- 参加者：哲学（現象学、分析形而上学）、心理学（実験、臨床）、生態学、認知科学、神経科学、教育学、宗教学、看護学、医学、体育学など多分野、総勢30名ほど
- 最終の目標：地域づくり、場所作り

+ 関連する研究

- 趣旨：心の哲学と心理学の脱構築
- 心の哲学と諸科学（心理学、発達心理、臨床心理、認知科学、ロボット工学、精神医学）の基本概念が、西洋、男性、成人、健常、異性愛を暗黙前提としているために、これを脱構築して、心の哲学と心の諸科学をより広い領域へと解放する。
- 研究主体／資金：科研費
- 参加者：現代哲学、東洋思想（心身論）、心理学、臨床心理、ジェンダー論、理論心理学、障害学、教育学
- 最終目標：新しい心理系諸科学の基礎理論構築

+ 人間環境の問題

- 人間環境のあり方を記述し、
- 人間個々人がその人間環境とどのような関係性をとり結んでいるかを明らかにし、
- どのような人間環境を構築・再構築すべきかという規範的な問題を探求する
- 事実の研究と問題の解決

+ (2) 当事者研究とインクルージョン

- 趣旨：当事者の中心の医療、教育、福祉の構築と専門家の役割の再構築
- 研究主体・資金：科研費研究、学内超領域研究会、NPO
- 参加者：哲学、精神医学、臨床心理学、科学史、福祉社会学、福祉学、経済学（福祉経済）、特別支援教育学、障害学、福祉行政、福祉NPO、病院など多数。
- 最終目標：障害のあるひと・こどものインクルージョン。精神病棟の開放。

+ 当事者研究と現象学

- 教育や医療の専門家に対する自立性要求
- 当事者研究
- 当事者研究は質的に為されるが、そのひとつの方法論としての現象学
- 被教育者、患者の現象学
- 教育の現象学、看護の現象学
- 現象学は、じつはすぐ役に立つ。

+ 特別支援教育の哲学

- 障害分類のオントロジー
- 障害分類の政治性：自然種と人工種
- ユニバーサルデザインと技術哲学
- インクルージョン、ノーマライゼーションの政治哲学的意義
- 自律性、自立性、共生といった求められる価値のあいだの調整
- 差異の政治学と権利概念の再考
- ある種の障害学との対決、などなど

+ 哲学と厚生経済学、環境学

- 教育と福祉全体のあり方を考察する哲学的政治学が必要
- しかし、これは経済学的観点と無関係に進めることができない。
- 同時に、環境をどうデザインするかも関係する。
- 厚生経済学と環境デザインとコラボした、福祉=教育のための哲学的プランニング

+ 科学と倫理の共同研究

- 2008-2010 科研費「脳神経倫理学の理論的基礎の確立」(廣野喜幸)
- 2009-2011 科研費「生態学的なコミュニケーション論と社会的アフォーダンスに関する実証哲学的研究」(河野哲也)
- 2009-2012 科研費「生態学的現象学の技術哲学的展開—生態学的に優れた人工環境の構築に向けて」(村田純一)
- 2009-2011 科研費「自立とソーシャルワークの学際的研究」(庄司洋子)
- 2009-2010 立教大学学術推進特別重点資金プロジェクト研究「解離症状への臨床治療アプローチ:脳機能画像手法に基づく触知覚メカニズムの検討」(長田佳久)

+ (3) 哲学対話の普及

- 哲学的対話によるコミュニケーションと思考力を開発し、広義の社会教育を通して社会貢献する。こども哲学、哲学カフェ、サイエンスカフェ、地域問題の哲学対話、企業内哲学対話
- 実践主体・資金：NPO、学内研究費、科研費など
- 参加者：
 - こども哲学：児童生徒、保護者、初等中等教育教員・経営者、幼稚園・保育園、塾教師・経営者、大学教員(さまざまな分野)
 - 哲学カフェ・サイエンスカフェ：一般のひとたち、科学者

+

- 地域問題の哲学対話：地域でのコンフリクトの深いレベルでの問題解決を目指す
- 企業内哲学対話：企業倫理を含めて、よき企業、よきビジネスを行うための対話
- 最終目標：対話という社会構成原理の開発と対話を通じた生涯発達
- 学習支援、地域支援、企業支援など。

+

(4) 環境哲学の構築

- 趣旨：地球環境保護(理論と実践)
- 参加者：哲学・倫理学、生態学、生物学、環境科学、気象学、地理学、医学、政治学、社会学、経済学、言語学、文化人類学など。
- ノース・テキサス大学では、哲学・宗教学科が、自然科学系の環境学部の中にある。
- 生物学や環境学、動物学を学んだ学生が、哲学や宗教学を専攻する。
- 最終目標：地球環境保護の実施

+ 結論

- 日本の文系学部がどうなるかとかを考える必要があるだろうか。やるべきことは山脈ほどある。
- それ以前に、「学部」とか、学問の境界とか、アイデンティティになるような専門性とか必要だろうか。
- 必要ないし、新分野を作り出すのが、哲学系諸学では？
- ちなみに、発表者に対する過去5年間の講演依頼の3分の2は、非哲学系。哲学系3分の1のうち、半分が海外。どうも発表者は、日本の哲学系諸学から必要とされていないらしい。

+ ご静聴、
ありがとうございました。

基盤研究 (A) 24242001
基盤研究 (B) 25284001-1(基)
挑戦的萌芽研究 25580006